

中島重著作目録

松田 義男 編
改訂 2023年3月3日
2010年4月28日

目次

1. 著書
2. 論文

略歴

中島重(なかじましげる)は、1888(明治 21)年、岡山県上房郡高梁町(現高梁市)に生まれる。旧制高梁中学校(現岡山県立高梁高等学校)、第六高等学校(現岡山大学)を経て、1916(大正 5)年、東京帝国大学法科大学卒業。1917(大正 6)年、同志社大学講師に就任。1929(昭和 4)年、関西学院大学教授に就任。1946(昭和 21)年、同志社大学法学部教授に就任。同年 5 月 29 日、逝去。

凡例

- *「1. 著書(共著含む)」、「2. 論文等(新聞・雑誌掲載)」、に大別し、それぞれ年次順に配列した。
- *叢書名と巻書名がある場合、巻書名を表題として採用し、叢書名を< >に示した。
- *著書の概要を【 】に示した。
- *新聞・雑誌の連載は、初回掲載に一括した。
- *雑誌目次中の表題と本文表題とが異なる場合、原則として後者を採用した。
- *新聞・雑誌の特集名・掲載欄を適宜[]で示したほか、無題の場合は[]に示して仮題とした。
- *掲載雑誌の巻号数は、第 1 巻第 1 号→1-1 と表記し、日刊新聞の号数は省略した。また、新聞の夕刊についてのみ[夕刊]と注記した。
- *雑誌『社会的基督教』の無署名執筆文については、「『社会的基督教』誌の総覧及び社基参考書」(『社会的基督教』5-9、1936 年 9 月)、「『社会的基督教』誌総覧」(『社会的基督教』9-9、1940 年 9 月)に拠った。
- *収録書については初出の注記として[]に記した。
- *編者未確認の著作については、冒頭に*を付した。
- *その他、編者の注記を適宜[]に記した。

本著作目録作成に際しては、国立国会図書館、法政大学多摩図書館、同志社大学今出川図書館・同人文科学研究所・同法学部研究室・同神学部研究室、神戸市立中央図書館、神戸大学社会科学系図書館、神戸学院大学有瀬図書館、岡山県立図書館、岡山大学付属図書館より資料閲覧の便宜を得ました。付記して謝意を表します。

1. 著書(共著含む)

『多元的国家論』内外出版、1922年6月20日[『改版多元的国家論』二條書店、1946年10月25日]

【1 国家本質に関する二大思潮の対立、2 ナショナル・ギルズと国家主権との関係、3 英国に於ける新国家論、4 ギルド・ソーシアリズムの職能連邦国、5 英国に於ける新教会論、6 多元論的国家学説成立の可能性、7 ラスキの多元論的国家学説、8 ラスキの『多元国』とコールの『共同体』】

『法理学概論』更生閣、1925年5月10日【緒論(1 法理学の法学中に於ける位置、2 規範学としての法理学、3 法理学の方法、4 法理学の沿革)、本論 1 法の本質(1 法概念、2 法の淵源及び発達、3 社会伝統としての法、4 遵守規範としての法、5 理想法、6 法の根本要請の二、三に就て)、2(1 法と慣習、2 法と道徳、3 法と宗教)】

『日本憲法論』上・下巻[謄写版]非売品、1926年11月5日【緒論(1 社会、2 国家、3 道徳と法、4 憲法、5 憲法学)、本論 第1編 日本国民の権利義務(1 日本国民、2 日本国民の権利、3 日本国民の義務)、第2編 日本国家の法律上の地位 組織及び活動 1 日本国家の法律上の地位(1 国家の法律上の性質、2 国家の権利義務、3 国家と機関)、2 日本国家の組織(1 日本国家の政体、2 天皇及び摂政、3 選挙民団及び帝国議会、4 内閣及び枢密院、5 裁判所及び陪審、6 行政裁判所及び会計検査院)、3 日本国家の活動(1 国家活動の分類、2 立法、3 行政、4 司法)】

『日本憲法論』更生閣書店/巖松堂書店、1927年10月5日【緒論(1 国家、2 法、3 憲法、4 憲法学)、本論 1 日本国民の権利義務(1 日本国民、2 日本国民の権利、3 日本国民の義務)、本論 2 日本国家の法律上の地位、組織及び活動 1 日本国家の法律上の地位(1 国家の法律上の性質、2 国家の権利義務、3 国家と機関)、2 日本国家の組織(1 天皇及び摂政、2 選挙民団及び帝国議会、3 内閣及び枢密院、4 裁判所及び陪審、5 行政裁判所及び会計検査院)、3 日本国家の法律上の活動(1 国家活動の分類、2 立法、3 行政、4 司法)】

『基督教と社会問題』吉田勘三郎、1927年7月5日【1 基督教と社会問題、2 新時代とイエスの宗教】

『社会的基督教概論』同志社労働者ミッション、1928年10月5日[1928年7月27日～31日、同志社労働者ミッション主催江州坂本基督教夏季大学講演速記録。再版：日本労働者ミッション、1930年10月15日]

『神と共同社会』新生堂、1929年2月26日【信仰篇(1 キリストの社会化愛、2 神の国、3 神、4 人格の社会化としての救、5 摂理)、実践篇(1 国家と神の国、2 家庭と神の国、3 国際社会と神の国、4 産業社会と神の国)、付録(社会的基督教に於けるパウロの地位)】

『マルキシズムに対する宗教の立場』新生堂、1930年5月8日【1 基督教と資本主義、2 マルキシズムに対する宗教の立場、3 社会の進化とカトリシズム・プロテスタンチズム及びソーシアルクリスチャニティー、4 基督教と社会主義、5 『神の国』の再発見、6 基督教社会学の方へ、7 断片(十字架上に仰ぐ神、共同社会建設の宗教、自然も社会も神の内に、マックスセラーの社会的基督教、大乘基督教は東洋より)、8 マルクスの彼方へ】

宗教批判の標準と社会的宗教哲学の任務『現代宗教批判』<『宗教研究』臨時特輯号>同文館、1930年11月25日

『社会的基督教と新しき神の体験』基督教者学生運動出版部、1931年7月10日[復刻版：鈴木範久監修『近代日本キリスト教名著選集 32(第4期)キリスト教と社会・国家篇』(日本図書センター、2004年)収録]【1 新社会の建設と基督教の使命、2 の体験、3 社会的基督教と新しき神観、4 社会的基督教と「神の国」の再発見、5 社会的基督教と新神学体系、6 社会的基督教と新贖罪論、7 社会的基督教と新キリスト論、8 社会的基督教と新罪悪及び救済論、9 社会的基督教と新摂理論、10 社会的基督教と新不滅論】

『社会哲学的法理学』岩波書店、1933年4月16日【緒論、本論(1 人類の社会生活、2 法概念、3 法

の起源及び発達、4 社会事実としての法、5 遵守規範としての法、6 理想法、7 理想法(続き)、8 法の根本要請の二三に就て)、後論(1 法と慣習、2 法と道徳、3 法と宗教)、付録(ビンダーの法律哲学)】

序『帝国憲法逐条要義 増補改訂版』田畑忍著、政経書院、1934年4月20日

『社会的基督教』<日本宗教講座 10>東方書院、1934年10月15日【1 はしがき、2 神の国、3 神、4 贖罪愛、5 罪悪と審判と救拯、6 摂理、7 不滅】

学説法『法律学辞典 第1巻』岩波書店、1934年12月5日

習俗又は慣習と法『法律学辞典 第2巻』岩波書店、1935年6月30日

『スペンサー』<社会科学の建設者人と学説叢書>三省堂、1935年10月20日[『スペンサー 社会科学の創設者』<中島重著作集第2巻>関書院、1947年10月15日]【1 人及び生涯、2 第一原理、生物学及び心理学、3 社会学(一)、4 社会学(二)、5 社会学(三)、6 倫理学及び政治思想】

成文法『法律学辞典 第3巻』岩波書店、1936年3月15日

ヘーゲル／法源／法の解釈／類推『法律学辞典 第4巻』岩波書店、1936年8月27日

議会政治の新意義『時代と思索』夕刊大阪新聞社「文化と批判」編、甲文堂書店、1937年1月1日[初出は『夕刊大阪』であるが未見]

『社会的基督教の本質 贖罪愛の宗教』<基督教教程叢書 第20編>日独書院、1937年10月10日【1 社会的基督教の立場の理解の前提、2 パウロの立場、3 イエスの宗教、4 宗教に於ける否定と肯定、5 摂理の進行、6 不滅の進行、7 新人格主義の確立】

強制社会化意力を中心として観たる国家『国家及法律の理論 佐々木博士還暦記念』[田村徳治編]有斐閣、1938年10月25日

共同体の論理『社会』<哲学教養講座 第4巻>竹内富子編、三笠書房、1939年6月15日

『発展する全体 結合本位と機能主義』理想社、1939年9月25日【まえがき 書齋から、社会の部(1 産業社会と国家及び法、2 結合本位社会進展論の概要、3 強制社会化意力としての公権力の機能、4 強制社会化意力を中心として観たる政治と法と道徳、5 発展する全体、6 自由主義と発展する全体)、文化の部(1 文化発展論に於ける機能主義の立ち場、2 法理学研究その後、3 社会哲学的倫理学への構想、4 宗教を社会的・機能的に観る)、あとがき(強制社会化意力と社会化愛の宗教)】

『法理学』理想社、1941年7月1日【緒論、本論(1 人類の社会生活と国家、2 法概念、3 法の起源及び発達、4 法の社会事実としての本質、5 法の遵守規範としての本質、6 理想法の本質及び其の標準、7 理想法の標準としての形式主義・目的主義及び機能主義、8 法の創造的進化と社会の進展)、後論(1 法と慣習、2 法と道徳、3 法と宗教)】

『国家原論』三笠書房、1941年12月5日【緒論(1 国家原論の学問としての性質、2 国家原論の研究手法、3 国家原論と関係ある他の諸学科、4 国家原論の沿革、国家思想の歴史)、本論(1 国家の概念、2 国家の起源及び発達、3 国家の本質、4 国家の存在理由、5 歴史の転換期と国家、6 国家の種別、7 国家の成立・変革及び消滅)、後論(1 国家と法、2 国家と政治、3 国家と道徳)、付録(日本に於ける民族国家の実現について)】

『道徳・宗教と社会生活』<社会科学新体系 15>河出書房、1943年1月5日【1 道徳宗教の起源及び発達、2 道徳の本質と社会生活、3 宗教の本質と社会生活、4 人類社会生活の基本原則、5 歴史の転換期と道徳宗教の将来】

『国家本質に関する二大思潮の対立』<温故小文選 3>新教出版社、1946年10月30日[『多元的国家論』巻頭論文を収録]

『国家原論—職能の変化を中心としての—』[改版]<中島重著作集 第1巻>関書院、1947年5月20日

目【緒論(1 国家原論の学問としての性質、2 国家原論の研究手法、3 国家原論と関係ある他の諸学科、4 国家原論の沿革、国家思想の歴史)、本論(1 国家の概念、2 国家の起源及び発達、3 国家の本質、4 国家の存在理由、5 歴史の転換期と国家、6 国家の種別、7 国家の成立・変革及び消滅)、後論(1 国家と法、2 国家と政治、3 国家と道徳)】

2. 論文等(新聞・雑誌掲載)<306 篇>

1913(大正 2)年

人格の尊厳『新人』14-5、5月1日

1919(大正 8)年

社会契約説の新しい観方[「雑録」]『政治学経済学論叢』1-1、1月1日

牧野英一博士の新著『法律に於ける矛盾と調和』を読む[「解説」]『政治学経済学論叢』1-2、5月10日

1920(大正 9)年

国家と教会『新人』21-1、2、1月1日、2月1日

国家本質に関する二大思潮の対立を論じて私見を述べ『同志社論叢』1、3月1日[「国家本質に関する二大思潮の対立」と改題『多元的国家論』収録。単著として『国家本質に関する二大思潮の対立』(新教出版社、1946年)刊]

人格の超国家性『新人』21-4、4月1日

ナショナル・ギルツと国家主権との関係に就て『同志社論叢』2、6月1日[「ナショナル・ギルツと国家主権との関係」と改題『多元的国家論』収録]

ギルド・ソーシアリズムの究極的帰着点『新人』21-11、12、11月1日、12月1日

英国に於ける新国家論『同志社論叢』3、12月1日[『多元的国家論』収録]

1921(大正 10)年

ギルド・ソーシアリズムの職能連邦国『同志社論叢』5、5月20日[『多元的国家論』収録]

刑事政策学者としての山本君[「山本亀市君白井潔君追悼」]『新人』22-7、7月1日

英国に於ける新教会論『新人』22-11、11月1日[『多元的国家論』収録]

1922(大正 11)年

国家を団体の一種なりとする新説[「最新学説の紹介」]『我等』4-1、1月1日

世界的社会の発達と国家至上主義の終焉『表現』2-2、2月1日

多元論的国家学説成立の可能性『同志社論叢』7、2月15日[『多元的国家論』収録]

多元的国家学説と社会改造の基礎哲学『表現』2-5、5月1日

多元論的国家学説の立場よりする新国際政策論『日本及日本人』845、9月20日

1923(大正 12)年

多元論的国家学説と倫理学上の自我実現説『同志社論叢』11、5月25日

将来社会と個人の自由『表現』3-8、8月1日

現代法理学界に於ける自然法思潮[翻訳]『同志社論叢』12、11月25日

自由及び自由権の研究『同志社論叢』12、14、15、11月25日、1924年7月1日、11月28日

1924(大正 13)年

神を仮定せざる宗教哲学『新人』25-1、1月1日

協力をモットーとして[「社説」]『同志社時報』221、7月1日

1925(大正 14)年

国家に関する思想の変遷『京都日日新聞』1月1日

国家に関する思想の変遷『神戸新聞』1月3、4日

デュギーの法理思想『同志社論叢』18、12月1日

1926(大正 15・昭和元年)

新時代の精神と教育の社会化[「想苑」]『同志社時報』237、1月1日

デュギーの国家論『社会科学』2-3、3月1日

協力と奉仕の宗教的基礎『大阪講壇』303、3月5日

国家と法[1925年11月12日同志社大学法学会大会講演要旨「彙報」]『同志社論叢』19、3月1日

協力と奉仕の宗教的基礎『基督教世界』2203、3月18日[講演筆記、文責在記者]

多元的国家論の立場から『我観』30、4月1日

ビンデルの法律哲学『同志社論叢』20、6月15日[「ビンダーの法律哲学」と改題『社会哲学的法理学』収録]

ラスキの Grammar of Politics『社会政策時報』72、9月1日

ゾムローの社会学的法理学『同志社論叢』21、12月15日

1927(昭和 2)年

新ヘーゲル派の法律哲学『同志社論叢』22、2月25日

法の行はれる社会心理的基礎『同志社論叢』22、2月25日

第二同志社運動に就いて『同志社新聞』7、3月12日

基督教と社会問題『基督教研究』4-2、3月15日[『基督教と社会問題』収録]

奉仕と社会化愛『基督教世界』2288、11月10日

1928(昭和 3)年

明治より昭和への日本社会の進化『基督教世界』2311、4月26日[文責在記者]

日本宗教大会と東西宗教融合論『同志社新聞』24、6月15日

インターナショナルリズムの社会学的基礎『国際知識』8-7、7月1日

発酵的漸次的宗教改革の可能性『同志社新聞』30、11月1日

1929(昭和 4)年

基督教社会学の方へ『雲の柱』8-2、2月1日[『マルキシズムに対する宗教の立場』収録]

欧州キリスト教社会運動の一資料[「学芸」]『同志社新聞』36、2月15日

同志社の基督教よ何処へ行く『大阪毎日新聞』5月16日[『新聞集成昭和編年史 昭和四年度 II』(新聞資料出版、1989年)収録]

基督教と資本主義『同志社新聞』復刊1、6月27日[『マルキシズムに対する宗教の立場』収録]

私が同志社を去った顛末並御挨拶『同志社校友同窓会報』33、7月15日

法に於ける能率の原則『法律春秋』4-8、8月1日

基督教と社会主義—社会的基督教と多元的国家観—『思想』88、9月1日[『マルキシズムに対する宗教の立場』収録]

自然も社会も神の内に『大阪毎日新聞』11月17日[『マルキシズムに対する宗教の立場』収録]

十字架上に仰ぐ神『大阪毎日新聞』11月19日[『マルキシズムに対する宗教の立場』収録]

共同社会建設の宗教『大阪毎日新聞』11月21日[『マルキシズムに対する宗教の立場』収録]

マックスセラーの社会的基督教『大阪毎日新聞』12月4日[『マルキシズムに対する宗教の立場』収録]

大乘基督教は東洋より『大阪毎日新聞』12月5日[『マルキシズムに対する宗教の立場』収録]

真理似寒梅『同志社新聞』復刊5、12月15日

1930(昭和 5)年

高柳賢三氏著「法律哲学原理」を読む『京都帝国大学新聞』118、2月5日

マルキシズムに対する宗教の立場[「宗教」]『読売新聞』3月13~15、18~22、25、27日[『マルキシズムに対する宗教の立場』収録]

法理学と社会哲学『法学志林』32-4、4月1日

「身分より契約へ」「契約より機能へ」『関西学院新聞』移転1周年記念号付録、6月25日

法と慣習との関係に就ての機能主義的考察『法学志林』32-7、7月1日

基督教の社会的立場とその使命『開拓者』25-9、9月1日[「新社会の建設と基督教の使命」と改題『社会的基督教と新しき神の体験』収録]

組織関係規範観と私法本質論『法学志林』32-10、10月1日

社会的基督教と神の立場『開拓者』25-11、11月1日[「社会的基督教と神の体験」と改題『社会的基督教

と新しき神の体験』収録]

社会的基督教と新しき神観『開拓者』25-12、12月1日[『社会的基督教と新しき神の体験』収録]

1931(昭和6)年

社会的基督教と「神の国」の再発見『開拓者』26-1、1月1日[『社会的基督教と新しき神の体験』収録]

社会的基督教と新神学体系『開拓者』26-2、2月1日[『社会的基督教と新しき神の体験』収録]

基督教と社会問題『神の国新聞』637、3月18日

社会的基督教と新贖罪論『開拓者』26-4、4月1日[『社会的基督教と新しき神の体験』収録]

基督教は社会科学を如何に取扱ふ可きか『開拓者』26-9、9月1日

賀川豊彦氏「一粒の麦」の社会思想『雲の柱』10-9、9月1日

1932(昭和7)年

発刊の辞『社会的基督教』1-1、5月15日

贖罪愛の社会主義『社会的基督教』1-1、2、5月15日、6月15日

社会的基督教に於ける平等相差別相[巻頭言]『社会的基督教』1-2、6月15日

*新国家承認問題 暗黙の裡にも国家は承認さる 労農ロシアがその好適例[談]『大阪時事新報』6月18日

新社会の建設と基督教の使命『基督教世界』2524、2525、6月23、30日

フアッシュムと基督教『日本メソジスト新聞』2113、2114、7月8、15日

社会的基督教と自由主義の価値[巻頭言]『社会的基督教』1-4、8月15日

社会的基督教と個人の価値[巻頭言]『社会的基督教』1-5、9月15日

権威的統制と機能的統制『社会的基督教』1-5、9月15日

社会的基督教と全体的立場『開拓者』27-10、10月1日

贖罪愛の宗教としての社会的基督教[巻頭言]『社会的基督教』1-6、10月1日

贖罪愛と理想社会の実現『社会的基督教』1-6、10月1日

山上の垂訓の真意義[巻頭言]『社会的基督教』1-7、11月1日

社会的基督教と新文化の創造『社会的基督教』1-7、11月1日

クリスマスを迎ふ[巻頭言]『社会的基督教』1-8、12月1日

1933(昭和8)年

一九三三年を迎ふ[巻頭言]『社会的基督教』2-1、1月1日

社会的基督教と弁証法『社会的基督教』2-1、1月1日

賀川氏の「傾ける大地」[「ブツク・レビュー」]『社会的基督教』2-1、1月1日

「基督教前衛同盟結成に関して」を読む[「ブック・レビュー」]『社会的基督教』2-1、1月1日
日本基督教教育調査委員会の報告書[「ブック・レビュー」]『社会的基督教』2-1、1月1日
「キリスト我内に在りて活く」[巻頭言]『社会的基督教』2-2・3、3月1日
西田博士の「無の自覚的限定」『社会的基督教』2-2・3、3月1日
社会的基督教と階級闘争主義の超克『社会的基督教』2-2・3、3月1日
大井蝶五郎氏パンフレットを読む[「ブック・レビュー」]『社会的基督教』2-2・3、3月1日
キリストの患難の欠けたるを補ふ[巻頭言]『社会的基督教』2-4、4月1日
社会的基督教実践機関としての教会『社会的基督教』2-4、4月1日
手帖の中より[「ブック・レビュー」]『社会的基督教』2-4、4月1日
法と道徳の分化と自由主義『法学志林』35-4、6、7、4月1日、6月1日、7月1日
聖書の価値解釈[巻頭言]『社会的基督教』2-5、5月1日
教文館発行の「基督者としての私の社会観」[「ブック・レビュー」]『社会的基督教』2-5、5月1日
神の経綸[巻頭言]『社会的基督教』2-6、6月1日
教会の社会化[巻頭言]『社会的基督教』2-7、7月1日
吾人の主張のマルキシズムと異なる三要点『社会的基督教』2-7、7月1日
我等の第三回大会を迎ふるに当りて[巻頭言]『社会的基督教』2-8、8月1日
自由主義的社会主義の展望『社会的基督教』2-8、8月1日
竹中勝男氏の「社会主義と基督教の経済倫理」[「ブック・レビュー」]『社会的基督教』2-8、8月1日
改名と新発展[巻頭言]『社会的基督教』2-9、9月1日
プロテスタントイズムと不断の宗教改革[巻頭言]『社会的基督教』2-10、10月1日
プロテスタントイズムと自由主義の過去の功績並に将来の展望『社会的基督教』2-10、10月1日
法の組織関係規範観と機能主義的考案『法律時報』5-10、10月1日
秋と宗教[巻頭言]『社会的基督教』2-11、11月1日
贖罪愛の實踐に就て『社会的基督教』2-11、11月1日
所有は神の委託なり『社会的基督教』2-12、12月1日

1934(昭和9)年

一九三四年に望んで[巻頭言]『社会的基督教』3-1、1月1日
基督教と国家[巻頭言]『社会的基督教』3-2、2月1日
「彼岸即此岸」「寂光土即娑婆」—山谷省吾君の批評に答へて—『社会的基督教』3-2、2月1日
「神愛の群ニュース」第十号[「ブック・レビュー」]『社会的基督教』3-2、2月1日
文化危機と宗教[巻頭言]『社会的基督教』3-3、3月1日

贖罪愛に就ての再論『社会的基督教』3-3、3月1日
社会的基督教の重大性[巻頭言]『社会的基督教』3-4、4月1日
贖罪愛と道德律『社会的基督教』3-4、4月1日
カールバルトの Theological Existence Today(A Plea for Theological Freedom)を読む[「ブツク・レビュー」]『社会的基督教』3-4、4月1日
権威主義的国家観を排す[巻頭言]『社会的基督教』3-5、5月1日
神の国の実現と贖罪愛『社会的基督教』3-5、5月1日
祈と創造『社会的基督教』3-6、6月1日
結合本位の社会思想と消費者の立場『社会的基督教』3-7、7月1日
第四回全国大会を迎ふるに当りて[巻頭言]『社会的基督教』3-8、8月1日
基督教と国家『社会的基督教』3-8、8月1日
新発展を期す[巻頭言]『社会的基督教』3-9、9月1日
基督教と国家(再)『社会的基督教』3-9、9月1日
最近に於ける宗教的関心の興起と社会的仏教の諸問題『思想』149、10月1日
教会の将来社会に於ける地位とその当面現在に於ける任務『社会的基督教』3-11、11月1日
モリソン氏「基督教の危機」[「ブツク・レビュー」]『社会的基督教』3-12、12月1日
難波紋吉著社会学要義[「新刊批評」]『社会学』2、12月25日

1935(昭和10)年

一九三五年を迎ふ[巻頭言]『社会的基督教』4-1、1月1日
基督教の社会理想『社会的基督教』4-1、2、1月1日、2月1日
日本に於ける社会的基督教の現在及び将来『開拓者』30-2、2月1日
我国宣教師間に起りたる社基運動と我が連盟との関係に就て『社会的基督教』4-2、2月1日
サラリーマンに寄するの語『社会的基督教』4-3、3月1日
田辺元氏「社会存在の論理」[「ブツクレビュー」]『社会的基督教』4-3、3月1日
友松円諦氏「浄土建立の行願」[「ブツクレビュー」]『社会的基督教』4-3、3月1日
統制経済の法理学『公法雑誌』1-3、3月5日
益々宗教的に益々社会的に[巻頭言]『社会的基督教』4-5、5月1日
説教号に因みて[巻頭言]『社会的基督教』4-6、6月1日
聖書の新解釈[巻頭言]『社会的基督教』4-7、7月1日
清水義樹著宗教哲学叙説[「ブツクレビュー」]『社会的基督教』4-7、7月1日
清水義樹氏著宗教哲学叙説『関西学院新聞』114、7月20日
社会的基督教と東洋的・日本的なるもの『社会的基督教』4-8、8月1日

我等の敬虔[巻頭言]『社会的基督教』4-9、9月1日
自由基督教とバルト神学と社会的基督教『社会的基督教』4-9、9月1日
社会的基督教とバルト神学との総合[「宗教欄」]『読売新聞』9月29日、10月1～5日
理想の炬火[巻頭言]『社会的基督教』4-10、10月1日
溝口靖男氏著「我国社会史に現はれたる差別感情とタブー」[「ブツクレヴュー」]『社会的基督教』4-10、10月1日<<無署名>>
法律と道徳『理想』58、10月1日
社会的基督教と合同問題[巻頭言]『社会的基督教』4-11、11月1日
社会哲学に就て『関西学院新聞』117、1935年11月20日
産業社会と国家及び法『関西学院大学法文学部研究年誌』1、11月30日[『発展する全体』収録]
基督の出誕[巻頭言]『社会的基督教』4-12、12月1日
今中次麿氏「危機の文化と宗教」[「ブツクレヴィュー」]『社会的基督教』4-12、12月1日
竹中勝男氏「近世社会的基督教の起源に関する研究」[「ブツクレヴィュー」]『社会的基督教』4-12、12月1日

1936(昭和11)年

一九三六年を迎ふ[巻頭言]『社会的基督教』5-1、1月1日
社会的基督教と新人格主義『社会的基督教』5-1、1月1日
贖罪愛の社会的実践『開拓者』31-2、2月1日
社会的基督教と人本主義[巻頭言]『社会的基督教』5-2、2月1日
社会的基督教と所謂日本的基督教[巻頭言]『社会的基督教』5-3、3月1日
米国の社会的福音と我国の社会的基督教との差異『社会的基督教』5-3、3月1日
法と權威主義 中世主義の復活と自由主義の意義[「非常時局の分析」]『帝国大学新聞』615、3月9日
神よ我が日本を正しきに導き給へ[巻頭言]『社会的基督教』5-4、4月1日
宗教思想界前途の展望[翻訳]『社会的基督教』5-4、4月1日
ホルトン著「即実的神学」[「ブツクレヴュー」]『社会的基督教』5-4、4月1日
統制経済をめぐる『関西学院新聞』122、5月20日
第五十号発刊に際して[巻頭言]『社会的基督教』5-6、6月1日
「キリスト、爾はわが真我なり」『社会的基督教』5-6、6月1日
我執の問題に肉薄せよ[巻頭言]『社会的基督教』5-7、7月1日
「宗教思潮」四、五月合併特輯号「宗教と現代」所載、原田信夫氏「社会的基督教神学のバルトによる修正」
[「ブツクレヴュー」]『社会的基督教』5-7、7月1日
[インタビュー記事「書齋訪問」]『学生評論』1-3、7月1日

自由主義の意義『中央公論』51-7、7月1日
社会に対する贖罪愛[巻頭言]『社会的基督教』5-8、8月1日
「社基読本」号の発刊に際して[巻頭言]『社会的基督教』5-9、9月1日<<無署名>>
社会的基督教の信仰『社会的基督教』5-9、9月1日<<無署名>>
新ヒューマニズムと社会的基督教[巻頭言]『社会的基督教』5-10、10月10日
社会的基督教に於ける生の肯定面と文化の問題『社会的基督教』5-10、10月10日
ニーバー著「基督教道徳の解釈」一九三五年 Niebuhr: An Interpretation of Christian Ethics, 1935[「ブツクレヴュー」]『社会的基督教』5-10、10月10日
神の国信仰の興隆[巻頭言]『社会的基督教』5-11・12、11月20日
木村泰賢著「大乘仏教思想論」[「ブツクレヴュー」]『社会的基督教』5-11・12、11月20日
Macmurray, "Creative Society"[「ブツクレヴュー」]『社会的基督教』5-11・12、11月20日
議会政治と我国の進むべき道『関西学院新聞』128、12月20日
結合本位社会進展論の概要『関西学院大学法文学部研究年誌』2、12月30日[『発展する全体』収録]

1937(昭和12)年

新しき意義に於ける議会政治確立の急務[「第廿五回誌上講演」]『海員協会雑誌』468、1月1日
イエスに於ける否定面とパウロに於ける肯定面『社会的基督教』6-1、1月10日
青年学生に与ふ[「青年に寄す」]『開拓者』32-2、2月1日
信仰に由る力[「説教」]『社会的基督教』6-2、2月1日
海老名弾正著基督教読本[「ブツクレヴュー」]『社会的基督教』6-2、2月1日<<無署名>>
歴史哲学の問題『社会的基督教』6-3、3月10日
榊原巖訳「ゲオルグヴンシュ福音主義的経済倫理」『社会的基督教』6-3、3月10日
社会的基督教と婦人問題『社会的基督教』6-4、4月10日
社会的基督教 結合を神に求める『関西学院新聞』131、4月20日
新議会の展望『関西学院新聞』132、5月20日
海老名先生についての断片『社会的基督教』6-7、7月10日
学生を語る座談会『関西学院新聞』134、7月20日[出席者：田村徳治、瀧川幸辰、天野貞裕、中井正一、梯明秀、野勢克男、林純平]
霊の不滅について[「説教」]『社会的基督教』6-8、8月10日
ワイマンの社会的基督教『社会的基督教』6-8、8月10日
特輯号発刊に際して[巻頭言]『社会的基督教』6-9、9月10日
戦時体制の行過ぎを警戒せなければならぬ『関西学院新聞』135、9月20日
年末雑感『社会的基督教』6-12、12月10日

1938(昭和 13)年

- 一九三八年を迎ふ[巻頭言]『社会的基督教』7-1、1月10日
- 日本的基督教の進むべき道『社会的基督教』7-1、1月10日
- 文化発展論に於ける機能主義の立場『関西学院大学法文学部研究年誌』3、2月15日[『発展する全体』収録]
- 電力国家管理法案をめぐる[時評]『関西学院新聞』140、2月20日
- 社会的基督教と神秘的体験[説教]『社会的基督教』7-3、4月8日
- ニーバーの「悲劇を越えて」[ブックレビュー]『社会的基督教』7-3、4月8日
- 永遠の理想と現実への即応[巻頭言]『社会的基督教』7-4、5月10日
- 歴史哲学と教会主義の社会的基督教—バルディエフの批判—『社会的基督教』7-5、6月10日
- 社会進展過程に於ける政と教『社会的基督教』7-6、7月10日
- 初等教育刷新案について『関西学院新聞』145、7月20日
- 為政者に説く[説教]『社会的基督教』7-8、9月10日
- 賀川豊彦先生の新著「神と贖罪愛への感激」[ブックレビュー]『社会的基督教』7-9、9月10日
- 発展する全体『理想』89、10月1日[『発展する全体』収録]
- 「二十世紀の神話」に非ずして二十世紀の宗教『社会的基督教』7-9、10月10日
- 一貫せる比較法制史「ポストの土俗法律学」[古典研究講座]『関西学院新聞』147、10月20日
- 法理学研究その後『帝国大学新聞』737、10月24日[『発展する全体』収録]
- 山本是郎君を憶ふ『社会的基督教』7-10、11月10日
- 東亜新文化の創造[气流塔]『世界週刊』1-27、11月12日
- 東亜の理想と天父の導き[巻頭言]『社会的基督教』7-11、12月10日[無署名、溝口靖夫との共同執筆]
- 「東亜協同体」の理想を掲げて全世界の基督教徒に与ふ『社会的基督教』7-11、12月10日[「東亜協同体と基督教」と改題『東亜協同体思想研究』(日本青年外交協会編・刊、1939年3月12日)収録]
- 曾根セツルメントの創立十周年記念式『社会的基督教』7-11、12月10日

1939(昭和 14)年

- 一九三九年の年頭に祈る[巻頭言]『社会的基督教』8-1、1月10日
- 抽象的人道的基督教の保守性『社会的基督教』8-1、1月10日
- 東亜新文化の創造と宗教の役割 “基督教と大乘仏教の合体”『一橋新聞』281、1月25日
- 自由主義と発展する全体『知性』2-2、2月1日[『発展する全体』収録]
- 東亜協同体の理想『開拓者』34-3、3月1日
- 書齋から[読書随筆]『京都帝国大学新聞』293、3月5日[『発展する全体』収録]
- 東亜新文化の基調としての社会的基督教『社会的基督教』8-3、3月10日

道徳と制度『思想』203、4月1日

強制社会化意力を中心として観たる政治と法と道徳『公法雑誌』5-4、5、4月5日、5月5日[『発展する全体』収録]

東亜の新道徳及び新法律文化『社会的基督教』8-4、4月10日

基督者の逡巡を戒む[巻頭言]『社会的基督教』8-5、5月10日<<無署名>>

基督者の逡巡を戒む『基督教世界』2878、5月25日[『社会的基督教』から転載]

アムステルダム基督教青年世界大会に際して[巻頭言]『社会的基督教』8-6、6月10日<<無署名>>

協同体の理想と社会的基督教『社会的基督教』8-6、6月10日

賀川豊彦氏著「約束の聖地」[「ブツクレビュー」]『社会的基督教』8-6、6月10日

協同体の理想と基督教[5月28日講演筆記於南大阪協会]『基督教世界』2881、6月15日

我等の進むべき道[巻頭言]『社会的基督教』8-7、7月10日

大乘精神の極致としての贖罪愛『社会的基督教』8-7、7月10日

大自然と神[巻頭言]『社会的基督教』8-8、8月10日<<無署名>>

基督教に於ける連帯主義『社会的基督教』8-8、8月10日

隠れたる我等の先駆者故石田秀一郎君を懐ふ『社会的基督教』8-8、8月10日

生と死—基督教より観たる—[「人生探求 生と死」]『日本評論』14-9、9月1日

興亜の大宗教運動を起せ[巻頭言]『社会的基督教』8-9、9月10日<<無署名>>

大乘哲学と社会的基督教『社会的基督教』8-9、9月10日

良心について[「道徳的現実の反省」]『知性』2-10、10月1日

全ヨーロッパ人に告ぐ[巻頭言]『社会的基督教』8-10、10月10日<<無署名>>

神の国の理想と新人格主義—特に海老名先生の人格主義との関連に於て—『社会的基督教』8-10、10月10日

社会的基督教に対するアメリカの貢献[巻頭言]『社会的基督教』8-11、11月10日<<無署名>>

マッキントッシュの新著 Social Religion 『社会的基督教』8-11、11月10日

1940(昭和15)年

一九四〇年の年頭に祈る[巻頭言]『社会的基督教』9-1、1月10日<<無署名>>

『神の国』の理想と欧州大戦『社会的基督教』9-1、1月10日

公権力の社会学的研究『社会学』7、1月30日

報告『社会的基督教』9-2、2月10日

信仰を問題とした文学[「石川達三作「使徒行伝」を読む」]『基督教世界』2918、3月7日

基督教と経済倫理[「宗教」]『読売新聞』3月31日

新東亜の建設と新神学の待望『社会的基督教』9-4、4月10日<<無署名>>

神に於ける社会と万有との連帯『基督教世界』2923、4月11日
新経済倫理の要請[巻頭言]『社会的基督教』9-5、5月10日<<無署名>>
基督教的新経済倫理『社会的基督教』9-5、5月10日
海老名先生 日本人として稀な型の思想家『基督教世界』2928、5月16日
新経済倫理と贖罪愛の新基督教[巻頭言]『社会的基督教』9-6、6月10日<<無署名>>
公権力と宗教『社会的基督教』9-6、6月10日
[「基督教と新経済倫理」懇談「中の発言」]『社会的基督教』9-6、6月10日
開会の辞[「社会的基督教全国連盟第十回全国大会記」]『社会的基督教』9-6、6月10日
世界の変革と宗教の前途『社会的基督教』9-7、7月10日<<無署名>>
聖書新解釈の根本方針『社会的基督教』9-7、7月10日
贖罪愛は実践出来るものなりや『社会的基督教』9-8、8月10日
奢侈品の廃絶と新ピューリタニズム[巻頭言]『社会的基督教』9-8、8月10日<<無署名>>
A New Internationalism, by Kojiro Sugimori[「ブツクレビュー」]『社会的基督教』9-8、8月10日
世界新秩序の基督教性と基督教の新時代性『新興基督教』120、9月1日
贖罪愛の歴史観とその実践の宗教『社会的基督教』9-9、9月10日
世界新秩序の社会学的基礎『太平洋』3-9、9月25日
東洋的・社会的基督教の炬火前に在り合同すべし[巻頭言]『社会的基督教』9-10、10月10日
われらの基督教はこれからだ『社会的基督教』9-10、10月10日
比較憲法史の社会学的研究『公法雑誌』6-10、11、10月5日、11月5日

1941(昭和16)年

滅私奉公に就て一井伊君に与ふる私信一『社会的基督教』10-2、2月10日
苦難に処する途『社会的基督教』10-4、4月10日
社会学的立場より観たる公権力と憲法との関係『公法雑誌』7-5~7、5月5日、6月5日、7月5日
基督教は科学を振興する[「主張」]『社会的基督教』10-5、5月10日
科学者の宗教的信仰『基督教世界』2982、6月5日
読書趣味涵養のために[「図書館文化の課題」]『新文化』126、7月1日
機能美と神『社会的基督教』10-9、9月10日
[「最近の学生諸君の印象」]『新若人』2-7、10月1日
現代国家と民族一ヘーゲル的国家論の批判と公権力に関して一[「国家への二論策」]『早稲田大学新聞』
228、10月29日
国民皆労と消費者の組織化『社会的基督教』10-11、11月10日
強い実行力の人[石田英雄追悼文]『基督教世界』3005、11月13日

哲学者の国家論『同志社新報』63、11月20日

「ヒトラーは宗教を廃止する？」『社会的基督教』10-12、12月10日

石田君の早世を悼む『社会的基督教』10-12、12月10日

1942(昭和17)年

大東亜戦争と基督者の覚悟 天意我に在り、我又天意に則らねばならぬ『基督教世界』3011、1月1日

天意に協ふものは勝つ『社会的基督教』11-1、1月10日

諸科学研究の方法に対する科学と哲学の立場[「方法論の再検討」]『関西学院新聞』186、6月20日

新時代と日本人の学問[「文芸」]『都新聞』7月12～15日[1 必要と機会、2 帰納の学問、3 科学の性質、4 誤信の危険]

機能主義的法本質観に関連する根本問題について『公法雑誌』8-12、12月5日

1943(昭和18)年

憲法についての組織関係規範の徹底『公法雑誌』9-11、11月20日

1944(昭和19)年

迷信の抑圧『東京新聞』1月18日

重工業戦の国家的意義『政界往来』15-4、4月8日

1945(昭和20)年

海老名先生の思想と信仰『基督教研究』21-4、9月1日